

令和5年度
発生予察情報

発生予報第9号（概要版）

令和5年8月28日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
大豆	紫斑病	発生量: 平年並	
	べと病	発生量: 平年並	
	アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガ アブラムシ)	発生量: 少	
	フタスジヒメハムシ	発生量: やや少	
	マメシンクイガ	発生量: やや少	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
りんご	斑点落葉病	発生量: 平年並	
	褐斑病	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	果樹カメムシ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
きゅうり(抑制)	うどんこ病	発生量: 平年並	
	べと病	発生量: 平年並	
	褐斑病	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋トマト	うどんこ病	発生量: 平年並	
	疫病	発生量: やや少	
	葉かび病	発生量: 平年並	
	すすかび病	発生量: 平年並	

	灰色かび病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	
	コナジラミ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋なす	うどんこ病	発生量: 平年並	
	すすかび病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	コナジラミ類	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	ハモグリバエ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
秋冬ねぎ	さび病	発生量: やや少	
	べと病	発生量: やや少	
	黒斑病・葉枯病	発生量: 平年並	
	ネギアザミウマ	発生量: やや多	
	ネギハモグリバエ	発生量: やや多	
	ネギコガ	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
いちご	うどんこ病	発生量: 平年並	
	炭疽病	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 多	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
作物共通	オオタバコガ	発生量：平年並	
	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	
	シロイチモジヨトウ	発生量：平年並	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第10号の発行日は9月19日(火)の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予報情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所

トップページ



メルマガ

登録フォーム

ー9月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月 17～22 日

天候予報:仙台管区气象台8月 24 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量は平年並であったことから、伝染源量は平年並と推測される。(/±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並であったが、発病株率は平年よりやや低かった。(/ー～±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	ー	少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/ー)
- (2) 効果の高い薬剤(種子塗抹処理剤)が広域で普及している。(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並であったが、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/ー～±)
- (2) 効果の高い薬剤(種子塗抹処理剤)が広域で普及している。(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
マメシンクイガ	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年よりやや少なかったことから、越冬量は平年よりやや少ないと推測される。(/ー)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

・本年は大豆の開花期が早かったことから、大豆の生育ステージをよく確認し、各病害虫に対して適期防除を行う。

※本年の開花期(大崎市古川)

タンレイ(5/25 播種)：7/18(平年差-6日)

ミヤギシロメ(5/25 播種)：7/27(平年差-4日)

ミヤギシロメ(6/15 播種)：8/4(平年値なし)

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 紫斑病

・大豆の生育ステージをよく確認し、開花期の20～40日後に1～2回薬剤を散布する。

・アゾキシストロビンに対する感受性低下菌の発生が確認されている。薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤の使用を検討する。

※普及に移す技術第97号参考資料「ダイズ紫斑病のアゾキシストロビンに対する薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r3hukyuugi25.pdf>

(3) べと病

・発生が著しい場合は単独防除を実施する。

(4) アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

・本年の巡回調査結果では発生が少ないが、例年は8月下旬～9月上旬に密度がピークに達するので、発生状況に注意し、多発した場合は防除を実施する。

・防除後も密度が低下しない場合や、急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。

・葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏によくかかるように散布する。

※普及に移す技術第81号「ダイズのジャガイモヒゲナガアブラムシの被害と薬剤による防除」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/69976.pdf>

(5) フタスジヒメハムシ

・第2世代成虫の発生盛期(平年：8月下旬～9月上旬)に薬剤を散布する。

(6) マメシクイガ

・発蛾最盛期とふ化盛期(8月下旬とその7～10日後の9月上旬)にかけて1～2回薬剤を散布する。

・本虫による被害は、ダイズの連作4年目以降から特に被害が大きくなることが知られている。連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、より効果の高い薬剤を選定する。

※普及に移す技術第84号参考資料「マメシクイガのダイズの総合的有害生物管理(IPM)における効果的防除法」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/69922.pdf>

※普及に移す技術第 94 号参考資料「ダイズのマメシクイガに対するフルキサメタミド乳剤およびクロラントラニ
リプロール水和剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735224.pdf>

(7)ハダニ類

- 一部で多発しているほ場が確認されている。ほ場をよく観察し、必要に応じて薬剤を散布する。
- 葉裏への寄生が多いので、薬液は葉裏によくかかるように散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月 17～22 日

天候予報:仙台管区气象台8月 24 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、徒長枝及び新梢葉における発生地点率は平年並、発病葉率は徒長枝で平年よりやや低く、新梢では平年並であった。(/ー～±)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)20～25℃の気温と多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かったが、寄生頭数は平年並であった。(/±～+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年並であった。(/±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・品種による収穫期の早晩を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- ・特に晩生種で最終散布を早めに切り上げると、果実に斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病等が発生したり、シンクイムシ類等の食害を受けたりする場合もあるので、生育状況と収穫時期にあわせた防除を行う。
- ・被害果(葉、枝)は、翌年作の感染源になる場合があるので、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については、『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 斑点落葉病

- ・収穫期まで常に発病の可能性があり、特に徒長枝や二次伸長した新しい展開葉等では発生しやすいので、発生状況を観察して防除を実施する。
- ・降雨が続くと発病が急増する場合があるので、定期的に防除を実施する。

(3) 褐斑病

- ・褐斑病の発生が広域で確認されている。今後の発生状況に注意し、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって定期的な防除を実施する。
- ・特に中生、晩生種で褐斑病による落葉が目立つ場合、収穫期まで防除を適切に実施する。

(4) ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合があることから、発生状況をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。
- ・特に発生の多いほ場では、確実に防除を行い、ハダニ類の密度を低下させて翌年の発生を抑える。

(5) 果樹カメムシ類

- ・ほ場をこまめに見回り、成虫や被害果がみられた場合は速やかに薬剤防除を行う。
- ・山林、特にスギやヒノキ林に近接するほ場では、被害を受けやすいので注意する。
- ・薬剤散布は、果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的である。
- ・有袋栽培では、果実の肥大によって袋に密着すると袋の上から吸汁されることがあるので注意する。

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—9月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月17~22日

天候予報:仙台管区气象台8月24日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/±)
- (2)15~28℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/±)
- (2)20~24℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	—	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/±)
- (2)30℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	—	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び1葉当たりの寄生頭数は平年並であった。(/±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

・薬剤については『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

・ウイルス病に罹病している株は伝染源になるので、取り除き、ほ場外で適切に処分する。

(2)うどんこ病、べと病、褐斑病

・肥料切れは発病を助長するため、適切に肥培管理を行う。

・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。

・薬剤防除は、罹病葉・果を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから実施する。

・被害残さは伝染源となりうるため、被害茎葉は適切に処分しほ場内の菌密度を下げるよう努める。

・株の 15 葉目以下の葉に薬剤散布を継続することで、うどんこ病、べと病及び褐斑病に対し全葉散布と同等の防除効果が得られると報告されている。詳細は以下の普及に移す技術を参照のこと。

「普及に移す技術」第 96 号(令和2年発行) 指導活用技術 17 「キュウリの中位葉及び下位葉重点防除による地上部病害の抑制」 <https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/847338.pdf>

(3)べと病、褐斑病

・多湿で発病が助長されるため、過繁茂とならないよう老化した下葉など不要な葉を取り除き、風通しを良くする。

(4)アブラムシ類

・株に定着すると急激に増加し、防除が困難になるとともに、ウイルスを媒介することがあるので、有翅虫やアブラムシの群生が見られた場合には速やかに防除を行う。

・ほ場外からの飛来を防止するため、ほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネットを設置する。

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－9月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:8月17～18日

天候予報:仙台管区气象台8月24日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2)20～28℃前後の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
疫病	－	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2)20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
葉かび病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2)20～25℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2)18～28℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2)15～23℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
(2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
(2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
(2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや、病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に脇芽取りや誘引等の栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- 多湿条件下では病害の発生が助長されることから、適切に換気を行う。
- ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、施設外へ搬出し適切に処分する。
- 訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- オオタバコガについては「作物共通害虫」の発生予報を参考にする。
- 東北各県でトマトキバガの発生が確認されており、トマトキバガの発生と被害が疑われた場合は、速やかに病害虫防除所又は最寄りの農業改良普及センターに連絡する。

※特殊報第1号「トマトキバガの初確認について」(令和5年7月24日)

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05tokusyuno1.pdf>

- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤も含めてFRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、気門封鎖剤は薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認してから、植物体全体にムラなく散布する。

※「普及に移す技術」第94号(令和元年発行)参考資料14「トマトうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735201.pdf>

(3)疫病

・一度発生すると急激に蔓延するため、発生初期の防除を徹底する。

(4)葉かび病・すすかび病

・葉かび病とすすかび病の病斑は似ており、肉眼では判別が難しいので、関係機関に相談して顕微鏡で分生子を確認してもらい、それぞれに登録のある農薬を散布する。

・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで、葉かび病は10日以上、すすかび病は14日以上と潜伏期間が長い。よって初発を確認した時にはすでに他にも潜在感染株が存在している可能性があるため、速やかに防除を行う。

(5)灰色かび病

・咲き終わった花卉が第二次伝染源になるので、手で取り除くかブロアで吹き飛ばす。

(6)アザミウマ類

・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果があるIRACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第93号(平成30年発行)参考資料9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

(7)アブラムシ類

・多発すると作物への吸汁や排泄物にすすが発生して被害が出るので、適切に防除を行う。

(8)コナジラミ類

・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生することと、タバココナジラミは低密度でもウイルスを媒介するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。

・主に葉裏にいたので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。

・タバココナジラミのバイオタイプQに対し薬剤感受性が低い事例が他県で報告されていることから、気門封鎖剤や天敵製剤による防除もあわせて行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－9月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:8月17～22日

天候予報:仙台管区气象台8月24日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、一部で発病株率が高いほ場も認められたが、発生地点率および発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 25～28℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 23～28℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 15～25℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハモグリバエ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、被害株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- 天敵製剤や訪花昆虫を使用している場合は、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- オオタバコガについては「作物共通害虫」の発生予報を参考にする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- 多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

(3) すすかび病・灰色かび病

- 発病した果実や茎葉は見つけ次第摘除し、施設外へ搬出し適切に処分する。

(4)アザミウマ類

・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果があるIRACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第93号(平成30年発行)参考資料9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

(5)アブラムシ類、ハモグリバエ類

・ほ場をよく見回り、適切に防除を行う。

(6)コナジラミ類

・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。

・主に葉裏にいたので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。

(7)ハダニ類

・薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めてIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合はIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－9月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:8月17～22日

天候予報:仙台管区气象台8月24日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	－	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年よりやや低かった。(/－)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/－)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	－	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/－)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/－)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年並であった。(/±)
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	－	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年よりやや高かった。(/＋)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	－	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かったが、被害度は平年並であった。(/±～＋)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギコガ	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害株率は平年より高かった。(/+)
(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+) : 遅くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 早くなる要因 (空欄) : 該当せず
発生量…(+) : 多くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 少くなる要因 (空欄) : 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- いずれの病害虫も多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- 病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) さび病、べと病、黒斑病、葉枯病

- 草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

(3) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- 近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

(4) ネギコガ

- 被害が見られた場合は、浸透移行性の高い薬剤を用いて速やかに防除を行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー9月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月18～22日

天候予報:仙台管区气象台8月24日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/±)
- (2)20℃前後の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/±)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率はやや高く、発生地点率は平年より高かった。(/±～+)
- (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・定植後、本ぽに天敵を導入する場合は、天敵に影響の少ない薬剤を計画的に散布する。
- ・本ぽの初期病害虫発生原因の多くは育苗からの持ち込みであるため、しっかり防除を行う。
- ・施設周辺および施設内の雑草は害虫の発生源なので、場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・本病は高温期に一時病勢が停滞するが、気温が低下してくると菌の活動が活発になるので、育苗ほでの予防防除を徹底する。
- ・適切な温度管理やかん水、葉かき作業と予防防除を組み合わせ、発病予防に努める。
- ・育苗ほ及び本ほでの UV-B 照射は、うどんこ病の発生抑制に有効である。

(3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り適切に処分する。葉かき作業は、晴天時等、湿度の低い時に実施する。また、かき取った葉は放置せず、ほ場外に運び出して処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブ等によりかん水を行う。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。
- ・予防散布の徹底が重要であり、薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC:11) は耐性菌が確認されているので留意する。

(4)ハダニ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。
- ・定植前に高濃度炭酸ガス処理、もしくは、育苗期後半にスピロテトラマト水和剤 (IRAC:23) の灌注を行うことで、本ほへの害虫持込みが回避され、長期間害虫の発生を抑制できるとされる。
※「普及に移す技術」第 91 号 (平成 28 年発行) 参考資料 22「スピロテトラマト水和剤 (商品名: モベントフロアブル) のイチゴ促成栽培における育苗期かん注処理による本ほでの微小害虫抑制効果」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20132/91sankoushiryou22.pdf>
- ・気門封鎖剤は物理的に作用する薬剤であり、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布する。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・UV-B を葉の表と裏に照射することにより、うどんこ病だけではなくハダニ類の密度も抑制されるので、本ほに UV-B ランプを設置している場合はハダニ類の防除の一環として、葉の裏にも UV-B を当てるため花房受けにスリムホワイト等の設置を検討する。

※「普及に移す技術」第 96 号 (令和 3 年発行) 指導活用技術 20「促成イチゴにおける UV-B 電球形蛍光灯と反射資材の併用による ハダニ類抑制効果 (追補)」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/847341.pdf>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー9月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月17～22日

天候予報:仙台管区气象台8月24日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	—	平年並

予報の根拠

- (1)フェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (2)巡回調査の結果、大豆での寄生頭数及び発生地点率は平年より高かった。(/ +)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	—	平年並

予報の根拠

- (1)フェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (2)巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/ ±)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった(秋冬ネギ)。(/ ±)
- (2)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下したり、台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、ほ場をよく見回り早期発見に努め、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)オオタバコガ

- ・宮城県は平年では8月中下旬に第2世代の成虫が飛来するとされているので、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると農薬がかかりにくく防除が困難になるため、農作物に食入する前に防除を行う。
- ・トマトやナス等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。
- ・通常、大豆における発生密度は低いですが、突発的に集中発生することがあるため、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。ツメクサガと混発している場合は下記の情報を参考にする。

※「普及に移す技術」第98号(令和5年発行)参考資料11「大豆栽培におけるタバコガ類に対するフルベンジアミド水和剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/22r04sankou11.pdf>

(3)ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ

- ・葉裏に毛でおおわれた卵塊で産卵し、集団で葉を食害するので、見つけ次第除去する。
- ・初発の防除後にも被害が見られる場合は、成虫の飛来が多い状況であるため、被害葉の除去とともに、7～10日間隔で薬剤をローテーション散布し、若齢幼虫を防除する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム